

# 固有種をおびやかす 開発

## 埋め立てや護岸開発

人間は、水がないと生きていけませんし、魚介類などの海や川、湖からのめぐみは大事な食資源です。

しかし、海や川、湖は、人間の活動の影響を受けやすい場所でもあります。たとえば、人は住む場所を増やすために海や湖を埋め立てますし、川のはんらんをおさえるため

に岸を石やコンクリートでかためます。そうになると、沿岸に生息している生き物はすむ場所を追われ、生息数が減ってしまうのです。

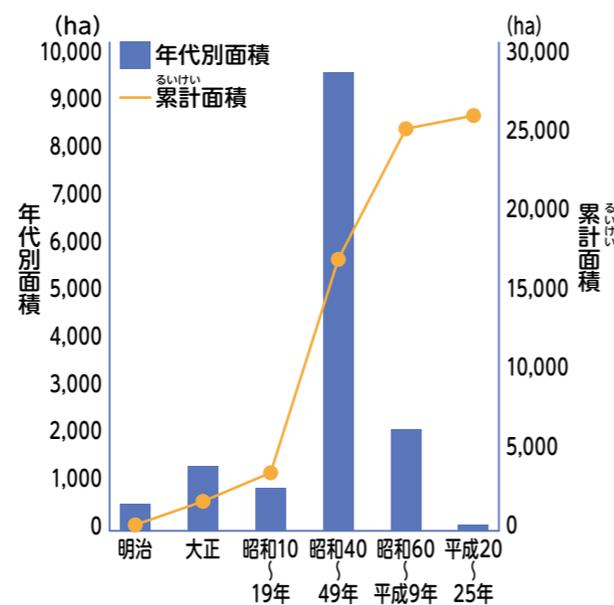
下のグラフは、東京湾における埋立地の面積のうつりかわりです。昭和30～40年代の高度経済成長期に、多くの場所が埋め立てられたことがわかります。

## 東京湾の年代別埋め立て状況



(東京湾環境情報センターホームページより作成)

## 東京湾内の埋立面積のうつりかわり



(東京湾環境情報センターホームページより作成)

## 干潟の面積が減っている

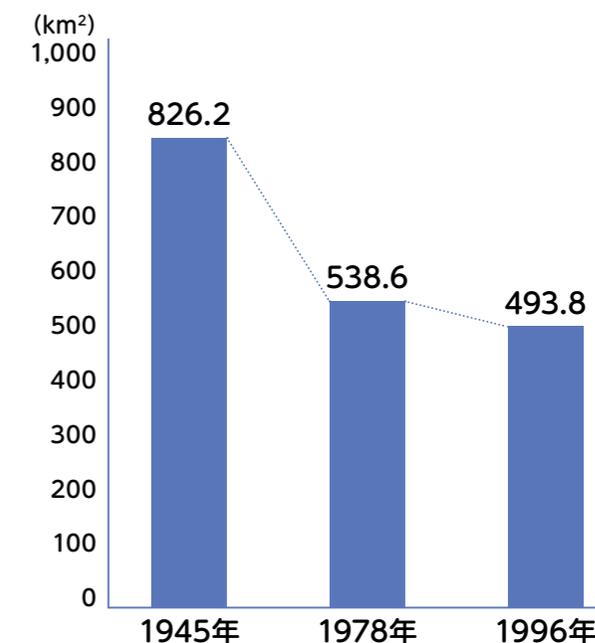
干潮時に干上がり、満潮時には海の下にすずむ、砂や泥がたまった浅瀬の場所を「干潟」といいます。水辺の生き物の産卵や幼魚・稚魚の生育場所としてはもちろん、陸からの栄養分や炭酸ガスなどを吸収して、富栄養化(→14ページ)を防いだり、海に酸

素をあたえたりする役割があります。しかし、高度経済成長期から全国各地で埋め立てが進み、干潟が大きく減りました。これにより、水辺にすむ多くの固有種も減ってしまったのです。



干潟 (写真: PIXTA)

## 日本の干潟面積のうつりかわり



(環境省「自然環境保全基礎調査」より作成)

## 干潟をめぐるあらそい

干潟の埋め立てや干拓\*をめぐるっては、古くから各地で反対運動や裁判が起こるなど、その地域でのあらそいのもとになってきました。

最近では、長崎県の諫早湾の裁判がよく知られています。堤防の水門を閉じて干拓した土地を農地にする計画でしたが、地元の漁師さんと農家さんたちがそれぞれ裁判を起こしました。水門を閉じることを命じる判決と、水門を開けることを命じる判決の両方が出たりして、一時は対立が深まりました。

\*干拓: 干潟を堤防などでしぎって水をぬき取り、干上がった土地を陸地にすること。



長崎県・諫早湾につくられた水門 (写真: PIXTA)

column

魚類

# クニマス



2020年  
EW



学名 *Oncorhynchus kawamurae*  
 分類 サケ目サケ科  
 全長 30 ~ 40cm  
 分布 秋田県田沢湖（絶滅）、山梨県西湖（移殖）

写真：ボルボックス

## どんな生き物？

サケの仲間です。かつて秋田県の田沢湖だけに生息していて、1940年代に絶滅したとされています。今は山梨県の西湖に生息していることが確認されています。黒っぽい色をしているのが特徴です。

クニマスの絶滅の原因は、水力発電所を建設するため、田沢湖に玉川の水を引き入れたことでした。

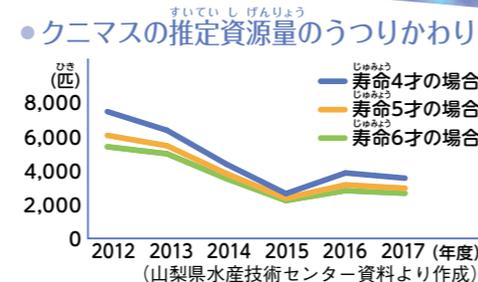
## どんな暮らしをしているの？

一生を湖だけですごしますが、くわしいことはわかっていません。言い伝えによれば、田沢湖では水深100~300mに生息し、プランクトンなどを食べていたと考えられています。

玉川の水は強い酸性水だったため、湖の水が急速に酸性化し、クニマスは死滅しました。

## 奇跡的に生きていたクニマス

絶滅したと考えられていたクニマスが、西湖で発見されたのは2010年です。西湖では、1935年に人工ふ化実験のため、クニマスが放流されたことがありました。それから約70年後、京都大学の研究チームの調査により、地元でヒメマスと考えられていた魚がクニマスであることがわかりました。現在、西湖には3,000匹ほどが生息していると考えられています。



column

魚類

# ゴマハゼ



2020年  
VU



写真：ボルボックス

学名 *Pandaka* sp.  
 分類 ハゼ目ハゼ科  
 全長 1 ~ 2cm  
 分布 和歌山県から宮崎県にかけての太平洋沿岸、対馬、五島列島、屋久島、種子島など

## どんな生き物？

おとなになっても2cmくらいにしかならない小さな魚で、日本で最小クラスの脊椎動物のひとつです。体は半透明で、黒色のまだら模様があります。

## どんな暮らしをしているの？

海と川がつながる河口の汽水域（淡水と海水がまざるところ）や、淡水が流れこむ漁港などにすんでいます。橋げたやテトラポッドのまわりなどを群れで泳ぎ、動物プランクトンを食べます。5~6月ごろ、カキがらのすきまなどに産卵します。

ゴマハゼの仲間は、日本にはゴマハゼ、マングローブゴマハゼ、ミツボシゴマハゼの3種が生息しています。どれも全長1~2cmくらいです。

## 沖縄の海で発見された黄色いハゼ

ハゼ類は種類が豊富で、もっとも繁栄している魚類のひとつです。世界に2,000種以上、日本に約500種がいて、川や湖、浅い海などに生息しています。2017年には、沖縄県恩納村沖の深海で、日本初の種類のハゼが発見されました。全長2.5cmの黄色いハゼで、沖縄県の代表的な花・ユウナにちなみ「ユウナハゼ」と命名されました。



ユウナハゼ (写真：一般財団法人沖縄美ら島財団)

column

両生類

# オオサンショウウオ



2020年  
VU



学名 *Andrias japonicus*  
分類 サンショウウオ目オオサンショウウオ科  
全長 30 ~ 164cm  
分布 岐阜県以西の本州・四国・九州の一部  
(国の特別天然記念物)

写真：福田幸広

## どんな生き物？

世界最大級の両生類です。3000 万年前と姿がほとんど変わっていないため「生きた化石」とよばれています。胴長で足は短く、前足に4本、後ろ足に5本の指があります。頭は平たく、小さな目と大きな口が特徴です。

夏になるとメスは、ヌシとよばれる大きなオスが作った産卵用の巣穴に産卵します。ヌシはふ化

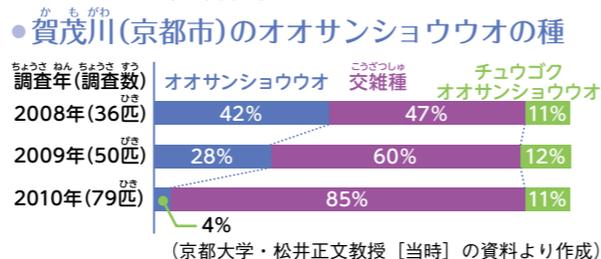
## どんなくらしをしているの？

両生類ですがおとなになっても陸に上がらず、水中ですごします。夜行性で、昼間は巣穴や岩の下にかくれていて、夜になるとサワガニや魚などをつかまえて食べます。冬は巣穴でじっとしていることが多くなります。

したあとも巣穴に残り、巣立つまで守ります。

## 増えるチュウゴクオオサンショウウオとの交雑種

京都市にある賀茂川は、オオサンショウウオの生息地です。しかし現在は、中国から持ちこまれたチュウゴクオオサンショウウオが野生化し、オオサンショウウオとの交雑種が増えて問題になっています。このままでは、純粋なオオサンショウウオがいなくなるのではないかと心配されています。



column

魚類

# アユモドキ



2020年  
CR



写真：ボルボックス

学名 *Parabotia curtus*  
分類 コイ目ドジョウ科  
全長 15 ~ 20cm  
分布 琵琶湖・淀川水系、岡山県 (国の天然記念物)

## どんな生き物？

京都府亀岡市と岡山県の一部の川に生息するドジョウの仲間です。体の形や泳いでいる姿がアユに似ていることから、この名前がつけました。口ひげは6本で、ほかのドジョウより尾びれが大きいのが特徴です。

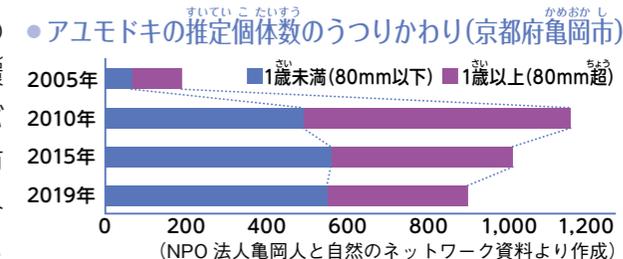
## どんなくらしをしているの？

川の下流や中流、農業用水路などにすんでいます。警戒心が強く、昼間は流れのゆるやかな川底や石の下などでじっとしています。朝と夕方に活動してユスリカ、トビケラなどの幼虫やイトミミズなどを食べます。

6 ~ 8月ごろ、水がはられた水田や、川の増水で一時的にできる水場に移動し、植物の根元や石の下などに産卵します。たまごはわずか2日ほどでふ化します。

## アユモドキを守ろう

アユモドキはもっとも絶滅が危惧される淡水魚の一種です。河川の改修や水田の整備による生息環境の悪化、産卵場所の減少、外来種のおオクチバスなどによる捕食が原因で激減しました。亀岡市では、アユモドキが生息する川や上流のため池で外来種を駆除するなど、保全活動に取り組んでいます。



column